

カキ生育情報

千葉県
平成22年12月号

【11月の気象】

平均気温は平年に比べ、第1半旬は0.2、第4半旬は1.7低かったが、その他の4半旬は0.4~1.7高く推移した。月平均気温は13.6で、平年より0.4高かった。また、最高気温は月平均が18.2で平年に比べ0.2高く、あまり平年差はなかったが、最低気温は月平均が8.8で平年より0.6高かった。

降水量は平年に比べ、第1及び第5半旬は非常に多く、第6半旬はほぼ平年並、第2~第4半旬は少なかった。月合計は163mmで平年より38mm(30%)多かった。

日照時間は平年に比べ、第1及び第2半旬は多く、第3半旬以降の4半旬は少なかった。月合計は142時間で平年より2時間(1%)少ない程度で、ほぼ平年並であった。

表1 平成22年11月の気象(館山測候所)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量 mm		日照時間 hr	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
	1	15.0	15.2	20.1	20.1	10.1	10.3	73	24.6	37.5	24.0
	2	15.3	14.5	20.3	19.3	10.0	9.7	0	23.9	33.3	23.5
11	3	14.1	13.7	19.6	18.5	8.6	8.9	1	22.5	20.0	23.3
月	4	11.2	12.9	14.6	17.6	8.3	7.9	10	20.0	10.9	23.3
	5	13.6	11.9	17.7	16.8	9.2	6.8	64	17.7	15.9	24.4
	6	12.4	11.0	16.8	16.0	6.8	5.6	16	16.6	24.4	25.3
合計/平均		13.6	13.2	18.2	18.0	8.8	8.2	163	125.3	142.0	143.8

【今年度の樹及び果実の生育の特徴】

暖冬傾向で3月上中旬の気温が高く推移したため、発芽期は平年より1~2週間程度早かったが、3月下旬~4月の低温、日照不足により樹の生育は遅れ、開花期は平年より数日遅れた。強風による新梢の枝折れや葉の傷害が目立ち、生理落果は少なかったが、炭疽病、ハマキムシ類の発生がやや多く見られた。本年は不成り年で全体に着果量が少なく、平年に比べ、西村早生では並、松本早生富有は少なく、富有はやや少なかった。

暖地園芸研究所における西村早生は、収穫盛期は平年並で、果実は182g、糖度は13.7で平年を下回った(表2)。松本早生富有は平年に比べ収穫盛期は7日早かったが、果実は小さく糖度は高かった。富有は平年に比べ収穫盛期は4日早かったが、果実はかなり小さく糖度はやや高かった。カメムシの被害はほとんど見られなかった。

いすみ市の西村早生は、収穫盛期は前年と同程度であったが、果実は170g、糖度は13.7で前年よりも下回った。スジ果や汚損果の発生、病虫害の発生は少なかった。

市原市の松本早生富有は、収穫盛期は前年と同程度で、果実は187gで前年より小さく、糖度は16.0で前年並であった。1年を通じてカキノヘタムシガの被害が見られ、また平年に比べ、ハマキムシ類による果実への被害が多く見られた。汚損果の発生は少なかった。

表2 平成22年産果実の形質及び品質

品種	調査地	収穫最盛期(月・日)	1果平均重(g)	糖度計示度(Brix)	へたすき	汚損果程度	その他	
西村早生	いすみ市	本年	9.30	170	13.7	微	少	
		前年	9.30	186	15.0	微	少	
	暖地園研	本年	9.29	182	13.7	微	少	スジ果少
		前年	9.24	193	15.3	微	少	スジ果少
		平年	9.29	202	14.7	-	-	-
松本早生 富有	市原市	本年	11月上	187	16.1	少	少	ハマキムシ類多
		前年	11月上	230	16.0	中	中	カキノヘタムシガ中 落葉病中
	暖地園研	本年	10.19	229	15.5	少	中	炭疽病多
		前年	10.26	226	14.4	中	中	うどんこ病中 炭疽病多
		平年	10.26	249	14.6	-	-	-
富有	暖地園研	本年	11.8	210	15.5	微	微	炭疽病中
		前年	11.2	260	14.6	多	中	うどんこ病、炭疽病中
		平年	11.12	268	15.1	-	-	-

注) 平年値は暖地園芸研究所における平成2年から20年間の平均値。

【冬季～春先までの作業の要点】

整枝・せん定

来年度は成り年で着果量が多くなると予想される。整枝せん定にあたっては、結果母枝の充実度を確認したうえで結果過多にならないよう心がける。せん定は間引きせん定中心に行い、切返しせん定による枝の更新も行う。特に不必要な徒長枝及び軟弱枝はすべて取り除き、病害虫多発園では密集した枝を風通しがよくなるように適宜間引く。

摘 蕾

開花 10 日前～開花直前(5月上中旬頃)に行う。摘蕾は樹体の消耗を抑え、大果生産と隔年結果防止のために行うので、せん定の一部と考える。着蕾量が多い場合には、充実した花蕾を残すよう摘蕾を徹底する。着蕾量が少ない場合は、小花、奇形花は落とすが、着蕾量を確認しながら過度には行わないようにする。

防 除

病害虫の越冬源を絶つために、落葉の処分と粗皮削りを徹底して行う。うどんこ病、黒星病の予防は、発芽直前の3月中下旬が防除適期である。また、カイガラムシ類の多い園では、休眠期の12～2月までが防除適期となる。展葉期の4月下旬は、うどんこ病ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ、チャノキイロアザミウマの防除適期である。防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

《生育情報の問い合わせ先》

千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 TEL 0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>